

参考資料

目 次

I. 調査レポート（干潟調査）

- ① 大田区環境マイスターの会 I -1
- ② 浦安市三番瀬環境観察館 I -21
- ③ 横浜港湾空港技術調査事務所、外来海洋生物観察会 I -25
- ④ 横浜港湾空港技術調査事務所、江戸前アサリわくわく調査 . . . I -28
- ⑤ 横浜港湾空港技術調査事務所、釣り調査 I -31

II 調査レポート（干潟以外調査）

- ① 国土交通省、関東地方整備局、東京空港整備事務所 II -1
- ② 東京都環境局自然環境部水環境課 II -10
- ③ 東京都板橋区 II -19
- ④ 横浜市港湾局 II -30

III 調査レポート（「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」による取組）

- ① 東京湾生物情報とりまとめおせっ会 III -1

I . 調査レポート (干潟調査)

干潟調査レポート①

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
大田区環境マイスターの会	多摩川河口大田区側	6月22日、7月19日

〔Ⅰ〕 調査概要

1. 調査者

大田区環境マイスターの会（計8名）および調査協力者（計3名）

2. 調査場所

多摩川河口大田区側

3. 調査目的

2017年より実施してきた同生息実態の調査を継続し、生態系の変化を確認すると共に、多摩川河口の干潟の環境保全に役立てる。

4. 調査内容

- ① 底層の生物調査
- ② 上記調査地点周辺の生物調査
- ③ 周辺の鳥類調査
- ④ 調査地点の底層調査

5. 調査対象生物

・貝類および節足動物類および鳥類

〔Ⅱ〕 生物調査方法

1. 調査地点

2017年の調査開始以降多摩川の0kmポイント（B）を中心に、海側約800m（A）と上流約1km（C）を基本サンプル採取地点として調査を実施。今回は潮の関係で一部の地点で未実施。

〔図－1〕 調査地点の地図



【表－1】 サンプル採取地点の場所

サンプル採取地点		場所	
A	1	河口先端域	陸側
	2		中間部
	3		川側
B	1	多摩川 0km ポイント	陸側
	2		川側
C	1	0km ポイントから上流側に約 1km離れた海老取り川との合流地点	陸側
	2		川側

2. 底層生物のサンプル採取方法

各採取地点の干潟で 25cm 四方、深さ 10cm の土壌を採取。約 1mm メッシュの袋にこの土壌を入れ、流水にて土砂を洗浄除去し、残渣中にいる生物を確認した。

また、土壌採取後湧き出た水を採取し、水温、pH および塩分濃度を測定した。

3. 計測機器

- 1) pH : 東亜 DKK (HM-30p) ポータブル pH 計 測定範囲 pH 1~12
- 2) 塩分濃度 : Dretac (EN904) 防水塩分計 測定範囲 0.1~5.0%
- 3) 位置 : Garmin (ガーミン) 登山用 GPS
- 4) 温度 : 横河電気製温度計 Model2455/石原温度計製作所製 No.7 赤液棒状温度計

[Ⅲ] 底層の生物調査結果

1. 調査実施時期

[表－2] 調査地点と実施時期

調査地点	調査実施日	
	調査日・時間	干潮時間（潮位）
A	6月22日(土) AM10:30～12:00	AM11:33 -8cm
B	7月19日(金) AM9:30～11:30	AM 9:58 15cm
C		

2. 調査地点の位置

[表－3] 調査地点の測位

地点	サンプル 採取地点	GPS	
		北緯	東経
A	1	N35° 32.213′	E139° 46.713′
	2	N35° 32.207′	E139° 46.703′
	3	N35° 32.201′	E139° 46.688′
B	1	N35° 32.410′	E139° 46.272′
	2	N35° 32.401′	E139° 46.261′
C	1	N35° 32.740′	E139° 45.237′
	2	N35° 37.730′	E139° 45.237′

3. 調査地点の水質

[表－4] 調査地点の水質

調査地点		pH 定値	塩分濃度%	水温℃
A	河川水	7.58	1.4	28.0℃
	A-1	6.65	1.9	26.0℃
	A-2	6.74	1.7	24.0℃
	A-3	7.30	2.0	23.0℃
B	河川水	7.59	1.2	27.0℃
	B-1	7.30	1.3	29.0℃
	B-2	6.63	1.4	26.0℃
C	河川水	—	—	—
	C-1	6.58	1.6	29.8℃
	C-2	7.09	1.4	27.8℃

※C の河川水は、C-2 と同じのため取得せず

4. 確認生物 生物の写真は[別紙 1 生物の写真]参照

4-1) 底層生物のサンプル採取で確認した貝の種類別個体数

① アサリ (単位: mm)

[表-5] アサリの大きさ別個体数

大きさ	A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	計
0~5	1	0	0	0	0	0	0	1
6~10	0	0	0	1	0	0	0	1
10mm 以上	1	2	1	0	0	0	0	4
計	2	2	1	1	0	0	0	6

② ヤマトシジミ (単位: mm)

【表-6】 ヤマトシジミの大きさ別個体数

大きさ	A1	A2	A3	B1	B2	C1	C2	計
0~5	0	0	0	1	0	0	0	1
6~10	0	0	0	1	1	0	0	2
10mm 以上	0	0	0	1	1	0	0	2
計	0	0	0	3	2	0	0	5

4-2) 採取底層中のその他の生物と周辺生物

[表-8] 底層生物のサンプル採取で確認したその他生物と周辺生物

調査地点	生物			
A/B	ヒモムシ類	イトゴカイ類	アラムシロ	オキシジミ (14)
	シオフキ (3)	マハゼ	ヒモハゼ	ユビナガスジエビ
	ハマグリ (1)	サビシラトリ	フジツボ類	コウロエンカワヒバリガイ
	ホトトギス	ヨコエビ	イトゴカイ類	ソトオリガイ (4)
	マテガイ (2)	マメコブシガニ	フジツボ	ヤマトカワゴカイ
	ナナフシ	コメツキガニ	ヤマトオサガニ	ムロミスナウミナナフシ
	ミズクラゲ	アカクラゲ	マガキ	アナジャコ
	フナムシ類	アカエイ	ボラ (稚魚)	コノシロ
	スズキ			
	カルガモ	ダイサギ	アオサギ	ウミネコ
C	ヤマトオサガニ	ハマグリ	ヒモムシ類	ムロミスナウミナナフシ

() は個体数

【IV】底層調査

目的：2019 年の台風 19 号により底質が泥質化したため、底層（約 20cm）の底質調査および地盤高調査を継続的に実施し、底質がどのように変化しているかを確認する。

1. 底層調査

- 調査方法：表層から約 20cm 下まで管を挿入して写真のように底層をサンプリングして底質の状況を確認する。

【管の中の底層サンプル】

- 結果：2021 年以降砂質化が進んできた。今回も A-3 地点で若干泥質が混じっていた以外、概ね砂質であった。



【表-9】 2024 年の底質調査結果

調査地点	A			B		C	
	1	2	3	1	2	1	2
底質	砂質	砂質	砂質	砂質	砂質	砂質	砂質*

*：若干泥質が混じっていた。

2. A 地点の地盤高調査 詳細は A 地点の地盤高調査報告書参照

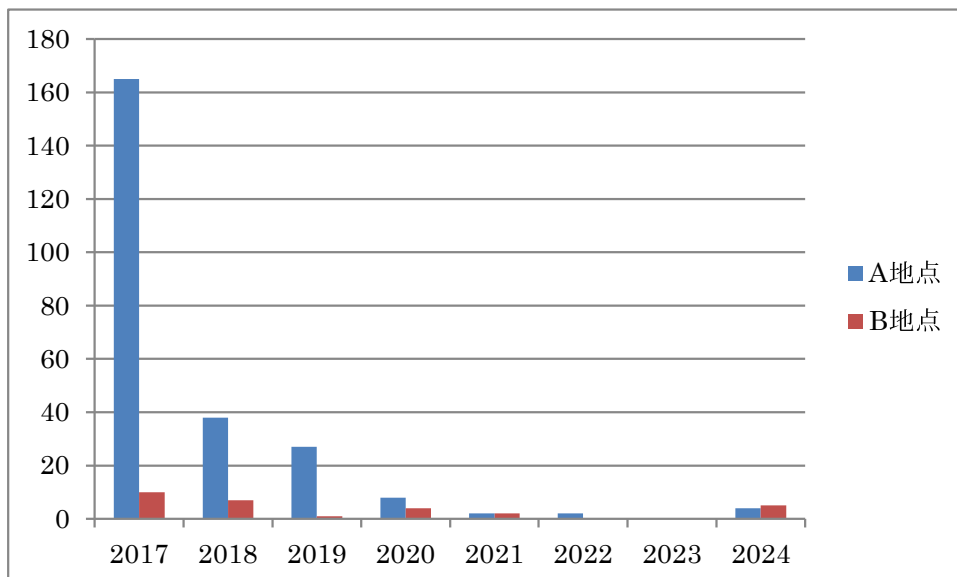
- 調査方法：別紙参照
- 結果概要：

調査年	川底の状況
2020	台風 19 号で運ばれてきた大量の土砂によって大幅に上昇
2021～2022	削られる動きで下がる
2023～2024	上昇する傾向に変化

[VI] まとめ

1. アサリは2017年以降減少傾向が続き、昨年は全く確認できなかった。しかし、今年は少量ながら確認することができ、来年以降さらに増えることを期待したい。

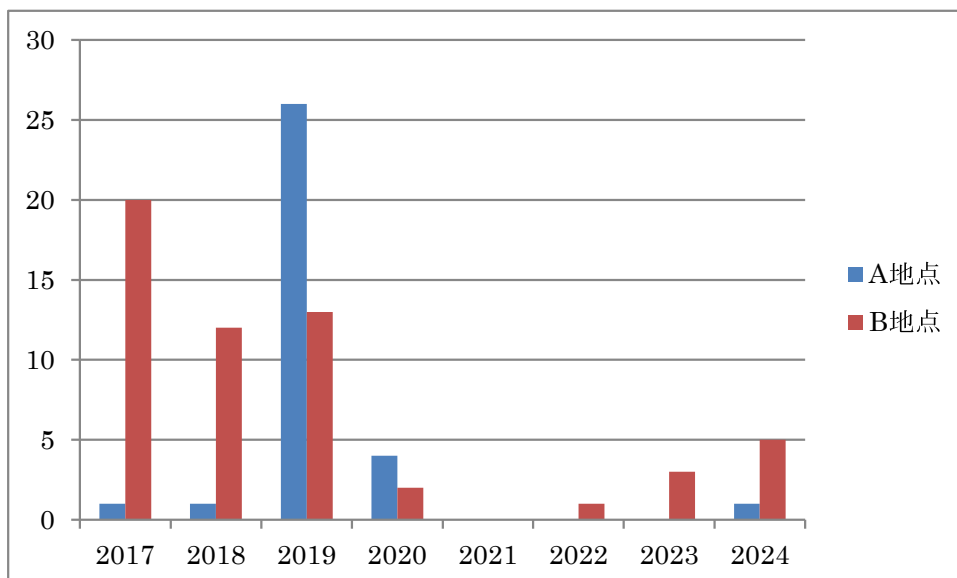
【図-1】アサリの年別採取個体数



2. ヤマトシジミは2019年以降、汽水域であるB地点でのヤマトシジミの数が減っていたが、2022年以降わずかながら増加傾向が続いている。

また、周辺エリアで10mm以上のものも確認できており、本格的な復活を期待したい。

【図-2】ヤマトシジミの年別採取個体数



3. このほかの貝類

カキやフジツボなどが2019年の台風以前に比べると数は少ないが、増加傾向が進んでいる。

4. カニ類

A/B 地点でカニはヤマトオサガニやコメツキガニの生息を確認できた。個体数は 2019 年以前に比べより少なくなっているが、順調に個体数は増えている。

C 地点は大規模な工事が行われた関係で、依然カニなどの生物が減っている。復活にはまだ時間がかかるとみられる。

以上

追記) 調査にご協力いただきました古川先生に感謝いたします。

別紙 1 生物の写真 1

		
オキシジミ	シオフキ	オキシジミ
		
オキシジミ	ホンビノスガイ	オキシジミ
		
不明	ソトオリガイ	ハマグリ
		
カキのなかま	マテガイ	アラムシロとヤマトシジミ
		
ゴカイのなかま	テナガエビ	フナムシのなかま

生物の写真 2

		
マメコブシガニ	ケフサイソガニ	ヤマトオサガニ
		
ヤマトオサガニ	ヤマトオサガニ	コメツキガニ
		
ミズクラゲ	アカエイ	アナジャコ
		
マハゼ	ハゼ類	ハゼ類
		
ボラの稚魚	コノシロ	スズキ

生物の写真 3

		
ウミネコ	ウミネコ	ダイサギ
		
カルガモ？	ダイサギとアオサギ	

2024 年 A エリアの地盤高測定報告

1, 測点の配置の変遷

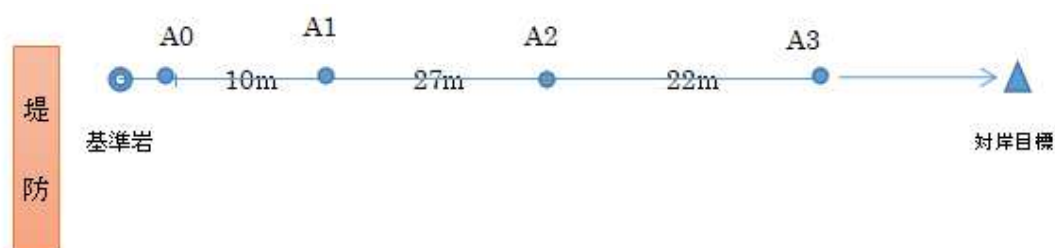
A エリアで始めた地盤高測定の測点については工事の影響や管理のしやすさを狙って少しずつ変更してきた。しかし測線方向は、同じ場所で変わらないようにしてきたので過去のデータと併せて比較し変化を見ることについては、問題ないと考えている。

今回、長らく行われていた高潮堤防工事が終了した事で今年使用した基準杭が今後安定的に使えデータの比較がより厳密にできるようになることが期待する。

a) 2020 年測量地点配置図

2020 年の調査では、2019 年に使った基準点を利用して同じ観測点を再現しやすくするために各点に木杭を打ち込み明確にした。

過去設置した観測点は、長さ等ばらばらであったが対岸目標と基準岩を結ぶ線上に再設定した。

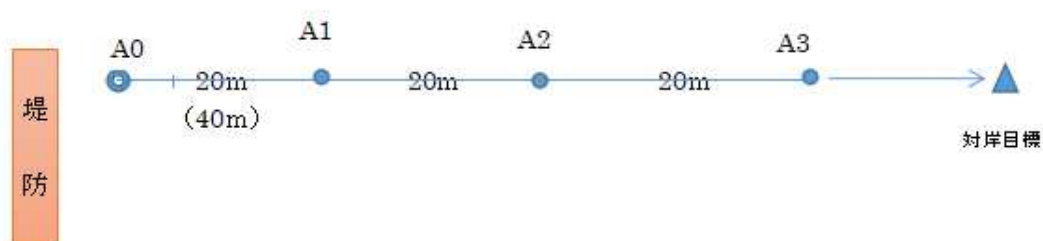


b) 2021 年測量地点配置図

観測点の配置を整理し今後の測量をしやすい様に各観測点の位置を変更した。

各点には 3 cm 角で長さ 1m の木杭を埋設した。

これにより今後使い続けていける点が出来たと考えていた。



c) 2022 年測量地点配置図

2022 年は、高潮堤防工事が行われ旧堤防や基礎石がすべて撤去され高潮堤防が新設された為、川岸の地盤が広範囲に掘られ埋設していた基準杭 A0 や当初使っていた基準岩も消失した。

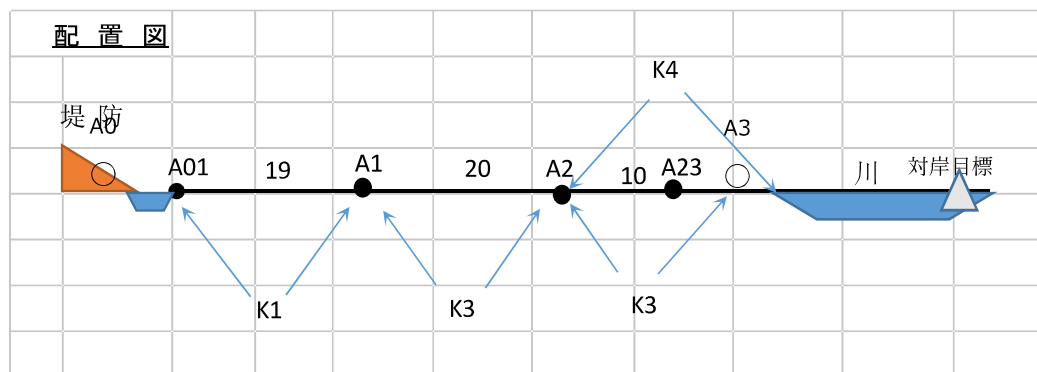
A0 の位置を再測して再現したかったが工事に伴って堤防下が水路状になっており再現できず 1m 離れたところに新たに A01 として木杭を埋設した。

他の観測点は、A2のみ確認されそれを使って対岸目標との見通し線上にA1、A23を設定した。尚 A3 については、川の中になってしまいぬかるんでいることもあり再現をあきらめて前 10mの所に A23 を設定し木杭を埋設した。

A1 の周辺は、干潮時も水たまりが残り足場も不安であるが 2020,2021 と比べるとだんだん良くなっていく方向で観測作業に影響ない状態まで改善されている。

A2 周辺は、砂が安定していて締まった状態である。

A3 周辺は、少し下がったのか水没していてぬかるみアクセス出来なかった。



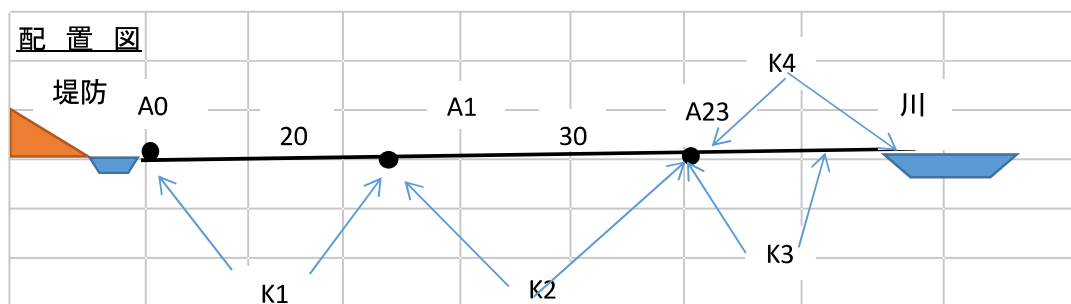
※K1～K4 は、観測を想定した時の機械点の位置

d) 2023 年測量地点配置図

高潮堤防の工事がほぼ終わり昨年と少し環境が変わった。水路に沈んでいた A0 に杭が打てる状況であったので対岸目標と A1 を使い 20mの距離の所に A0 として 30Φ×1000 木杭を打ち込んだ。

A1 及び A23 は、昨年使った杭が残っておりそれを使った。

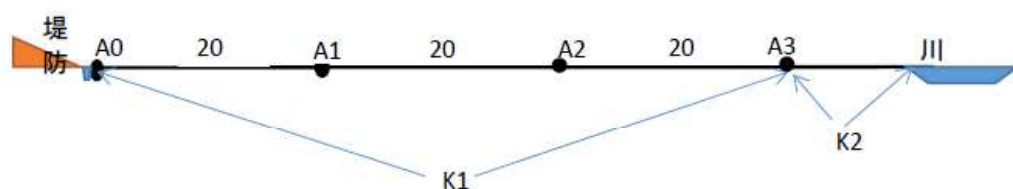
A23 から先のエリアは、大変ぬかるんでおり A3 まで行けず確認できない状況である。



e) 2024 年測量地点配置図

基準点については、残っていた A1 を除き A0～A3 まで 3 点再現して木杭を埋設した。これにより 2021 年の配置に沿って測点が再現出来て測定データが取れた。測定は、レベルを K1 に据えて A0～A3 まで観測し K2 に移動し A3 から川面まで観測した。

配置図



f) 現場写真

イ) A エリア全景



ロ) 高潮堤防礎石



ハ) A0 地点木杭



二) 測量風景



2, 観測データー

A) 2024 年結果と断面グラフ

過去埋設した A1 の木杭が安定して残っていたので A 1 を既知とし昨年データー**34.6cm**を**35cm**として各点の値を変換した。残念ながら他の既知点は、見つからなかったのが不安は残るが前後の昨年データー比較から問題はないと考えられる。

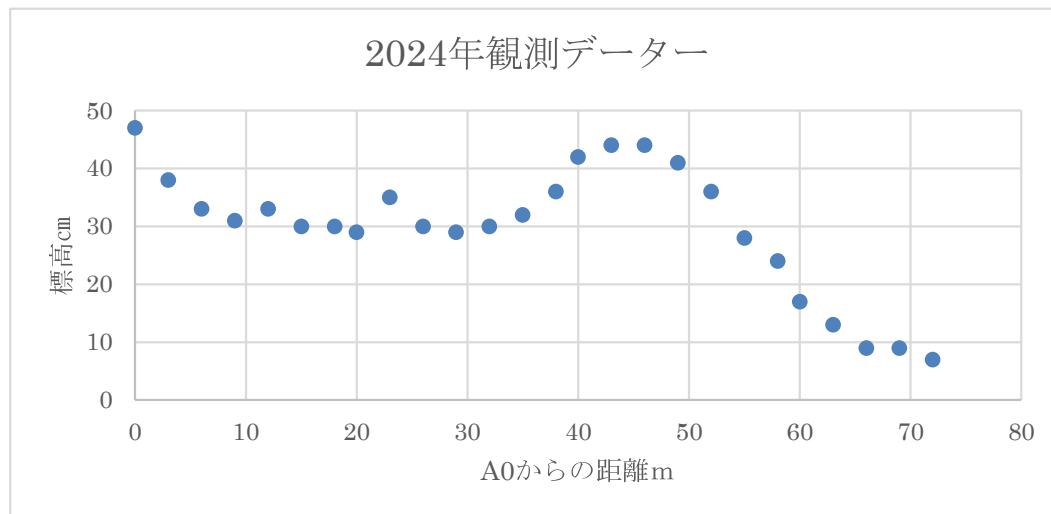
また潮時表から見ると当日の干潮時 11:33 の潮位は、－8 cmであった。

① 2024 年観測結果（水準手簿）

				水 準 手 簿			2024年6月22日	
				開始時間：		11:00	終了時間：	11:30
		天 気：	はれ	観測者：		古 川	標尺係：鈴 木	
		気 温：	30℃				記録係：北 澤	
	測点名	A0からの距離	点間距離m	K1	K2	合併	結果cm	備考
1	観測点A0	0	0	106		106	52	再現点
2	A0下			111		111	47	
	a1	3	3	120		120	38	
3	a2	6	3	125		125	33	
4	a3	9	3	127		127	31	
5	a4	12	3	125		125	33	
6	a5	15	3	128		128	30	
7	a6	18	3	128		128	30	
8	観測点A1	20	2	123		123	35	既存点34.6
9	A1下	20	0	129		129	29	
10	a7	23	3	123		123	35	
11	a8	26	3	128		128	30	
12	a9	29	3	129		129	29	
13	a10	32	3	128		128	30	
14	a11	35	3	126		126	32	
15	a12	38	3	122		122	36	
16	観測点A2	40	3	112		112	46	再現点
17	A2下	40	0	116		116	42	
18	a14	43	3	114		114	44	
19	a15	46	3	114		114	44	
20	a16	49	3	117		117	41	
21	a17	52	3	122		122	36	
22	a18	55	3	130		130	28	
23	a19	58	3	134		134	24	
24	観測点A3	60	2	134	128	134	24	再現点
25	A3下	60	—		135	141	17	
26	a20	63	3		139	145	13	
27	a21	66	3		143	149	9	
28	a22	69	3		143	149	9	
29	a23	72	3		145	151	7	
30	川				152	158	0	水面

② 2024 年観測データグラフ

前表の結果項のプロットグラフ



B) 過去4年の結果と断面比較グラフ

① 各年の地盤高と断面積計算

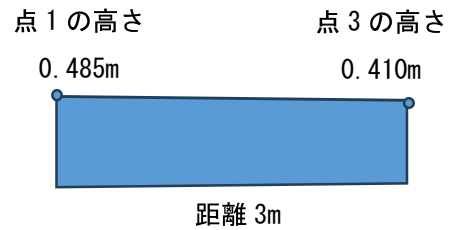
測定できていない点のデータは、前後の点から平均計算から求め赤字で記載し、比較しやすい0-55mまでの値を使って断面積を計算した。

点番	A0からの距離:m	2021年		2022年		2023年		2024年	
		地盤高:m	台形面積:m ²	地盤高:m	台形面積:m ²	地盤高:m	台形面積:m ²	地盤高:m	台形面積:m ²
1	0	0.48500		0.47200		0.45600		0.47000	
2	1			0.34600	0.40900				
3	3	0.41000	1.34250	0.38000	0.72600	0.36600	1.23300	0.38000	1.27500
4	6	0.36000	1.15500	0.35200	1.09800	0.33600	1.05300	0.33000	1.06500
5	9	0.33000	1.03500	0.31500	1.00050	0.33600	1.00800	0.31000	0.96000
6	12	0.32000	0.97500	0.33000	0.96750	0.32600	0.99300	0.33000	0.96000
7	15	0.37000	1.03500	0.32000	0.97500	0.30600	0.94800	0.30000	0.94500
8	18					0.32600	0.94800	0.30000	0.90000
9	19	0.37000	1.48000						
10	20	0.32000	0.34500	0.29900	1.54750	0.34600	0.67200	0.29000	0.59000
11	23	0.30500	0.93750	0.29000	0.88350	0.30600	0.97800	0.35000	0.96000
12	26	0.29500	0.90000	0.28600	0.86400	0.31600	0.93300	0.30000	0.97500
13	29	0.30500	0.90000	0.25700	0.81450	0.28600	0.90300	0.29000	0.88500
14	32	0.33500	0.96000	0.28800	0.81750	0.28600	0.85800	0.30000	0.88500
15	35	0.34500	1.02000	0.30300	0.88650	0.32600	0.91800	0.32000	0.93000
16	38	0.39500	1.11000	0.35400	0.98550	0.36400	1.03500	0.36000	1.02000
17	40	0.41500	0.81000	0.38100	0.73500	0.40600	0.77000	0.42000	0.78000
18	43	0.42500	1.26000	0.41500	1.19400	0.43600	1.26300	0.44000	1.29000
19	46	0.41500	1.26000	0.41200	1.24050	0.40600	1.26300	0.44000	1.32000
20	49	0.34500	1.14000	0.38900	1.20150			0.41000	1.27500
21	50			0.33900	0.36400	0.33600	1.48400		
22	52	0.28500	0.94500					0.36000	1.15500
23	53			0.26800	0.91050	0.26600	0.90300		
24	55	0.26500	0.82500	0.21060	0.47860	0.21267	0.47867	0.28000	0.96000
合計			19.43500		18.09910		18.64167		19.13000

※ 台形面積の計算方法

前頁の表の左上を切り取って以下に転載するがここにあるデーター2021年の点1と3で出来る台形面積の計算の仕方を例にして以下に説明する。

点番	A0からの距離:m	2021年	
		地盤高:m	台形面積:m ²
1	0	0.48500	
2	1		
3	3	0.41000	1.34250



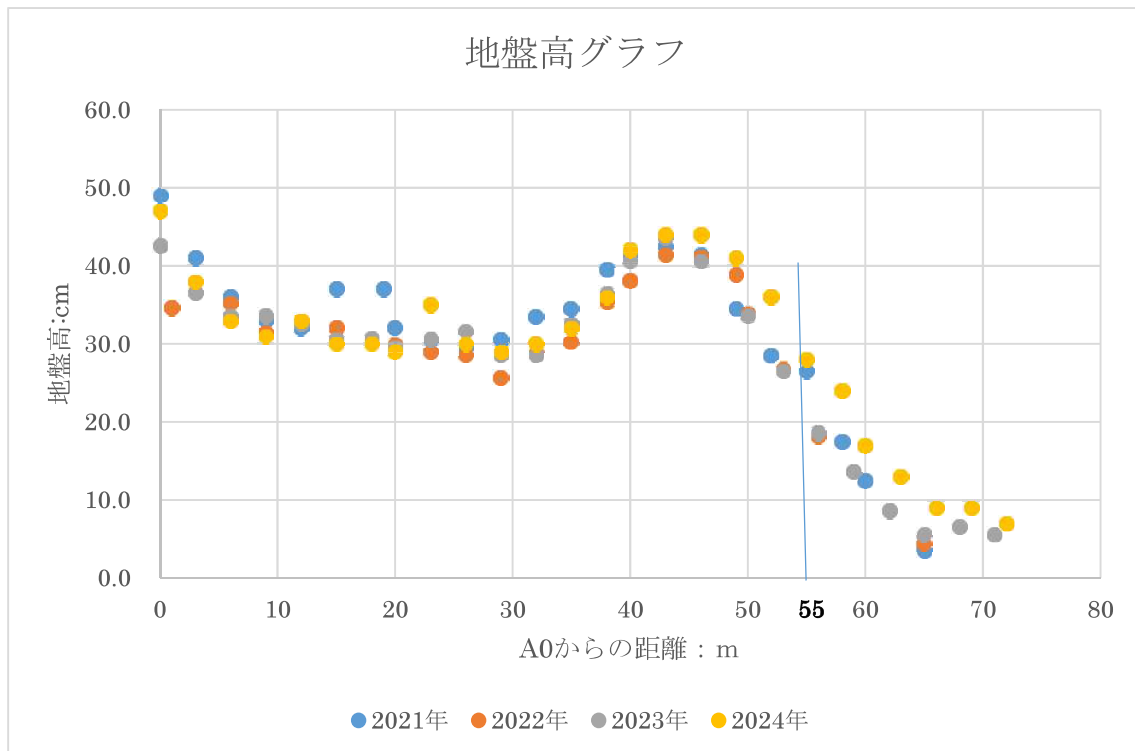
点1と点3で作られる四角形の面積は、各点の高さを辺長とし点間距離を高さとする上図のような寝かせた台形の面積で求められるから

$$\text{台形の面積} = (\text{上底} + \text{下底}) \times \text{高さ} \div 2 = (0.485 + 0.410) \times 3 \div 2 = 1.3425 \text{ m}^2$$

すべての点についてこの考え方で台形面積を計算して合計すれば0～55mまでの断面面積が求められる。

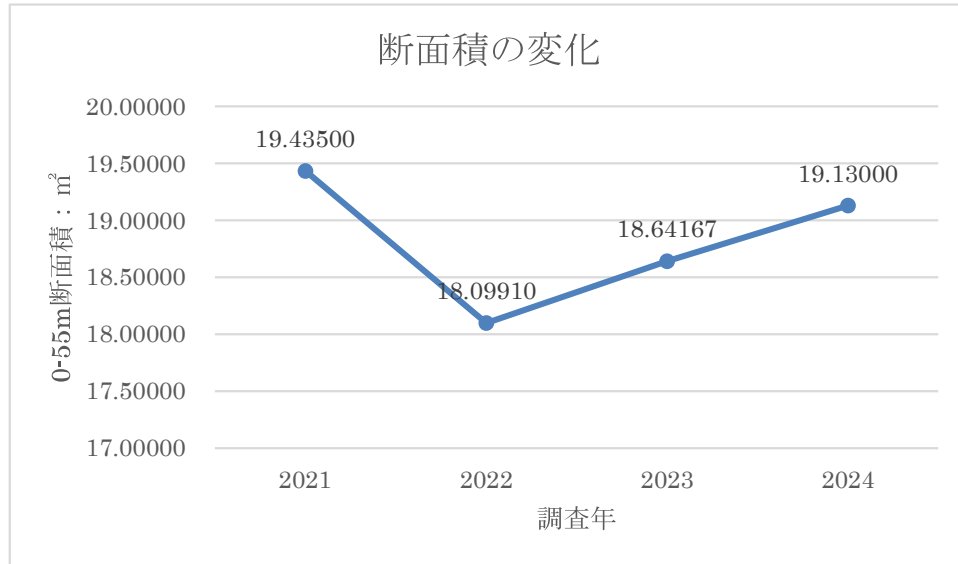
② 各年のデータープロットグラフ

各年の地盤高データーをすべてプロットし比較した



③ 断面積変化グラフ

各年度の 0-55m の断面積計算は、前表にある台形面積の総和で求められる。
年毎の総和値をプロットすると下記グラフになる。



3. 考察

今回、過去のデーターを見直し出来るだけ同じ条件で比較できるようにした。

2019 年の台風で大量の土砂が運ばれてきて川底は、大幅に上昇したとみられる。

その後、上昇した川底が削られる動きが **2022** 年まで続き、反転して **2023** 年以降上昇に転じてきているようだ。

上昇してきた原因は、**2021** 年以降、各種工事が行なわれており土砂の流出や掘削工事で間接的に、あるいは直接的に川底の高低に対し影響を及ぼしてきたと思われる。

① 台風による大規模な土砂流入

2019 年台風 19 号による水害による大規模な土砂流入があった

② 首都高 1 号線大師橋架け替え工事

2022 年頃より架け替え用の橋梁部材を運ぶ船の為、航路を浚渫した

③ 高潮堤防工事

2022 年から羽田空港横の高潮堤防の改修工事を基礎石の撤去、新設が行われたのに伴い堤防近接部で大規模な土木工事が行われた。

④ 河川改修工事

2023 年より台風対策のため JR 鉄橋下流の葦原部分（大田区側）を大規模に掘って川幅を広げる工事を実施中

4, 最後に

2019年の台風19号によりガラッと変わってしまった状況をきっかけに始まった水準測量も今年で5年目になる。これにより川底の変化も毎年それなりにあることがわかり今後も続けることでさらに見えることも出てくるかもしれない。

毎回、重い機材を持ち込んで暑い中、観測に協力をいただいている古川先生に大変感謝いたします。来年以降も続けられる限り頑張りますのでよろしくお願いいたします。

以上

干潟調査のレポート②

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
浦安市三番瀬環境観察館	浦安市日の出地先	7/7, 7/11, 7/21, 7/28, 8/18, 8/23, 9/15

東京湾カニ生息一斉調査 主催者用とりまとめシート

調査情報

団体名	浦安市三番瀬環境観察館	
調査地点名	浦安市日の出地先	
位置座標 (可能であれば) ※スマートフォン・タブレット端末等の地図アプリで取得してください。	緯度	N 35° 38' 36.2"
	経度	E 139° 56' 12.3"
実施年月日	7/7, 7/11, 7/21, 7/28, 8/18, 8/23, 9/15	
参加人数(人)	のべ149人	

調査結果

種類名	発見数(匹)	代表的な発見場所
チチュウカイミドリガニ		
マメコブシガニ		
ケフサイソガニ		
タカノケフサイソガニ	100	干潟、転石帯、護岸の隙間
ハマガニ		
アシハラガニ		
アカテガニ		
クロベンケイガニ		
クシテガニ		
ウモレベンケイガニ		
イシガニ	5	転石帯、潮下帯
コメツキガニ		
チゴガニ		
オサガニ		
ヤマトオサガニ		
ヒメベンケイガニ	5	カキ殻の隙間、転石下
スベスベオウギガニ	1	転石下
タイワンガザミ	10	干潟
シワオウギガニ	2	転石下
ヒライソガニ	20	転石下
ケアシヒライソガニ(仮)	5	転石下
イソガニ	50	転石下
カクベンケイガニ	5	護岸の隙間

(その他に種名が同定できたカニがいましたら、空欄に記入してください。)

備考

浦安市三番瀬環境観察館の海洋生物調査および環境学習講座「潮だまり観察会!」、校外学習で観察されたカニ類の結果をまとめた。
調査方法は目視およびタモ網を使ってカニ類を採集した。

干潟調査の結果

団体名	浦安市三番瀬環境観察館	
調査地点名	浦安市日の出地先	
位置座標 (可能であれば)	緯度	N 35° 38' 36.2"
	経度	E 139° 56' 12.3"
実施年月日	7/7, 7/11, 7/21, 7/28, 8/18, 8/23, 9/15	
参加人数 (人)	のべ 149 人	

発見した生物の種名※	特記事項など
タテジマイソギンチャク	
ハウザワイソギンチャク	
ナミヒモムシ	
ヒメケハダヒザラガイ	
イボキサゴ	
コシダカガンガラ	
アラレタマキビ	
タマキビ	
シマメノフフネガイ	
アラムシロ	
アカムシ	
レイシ	
イボニシ	
ヤミヨキセワタ	
コメツブガイ	
ヒガタヨコイトカケギリ	
ホトトギス	
コウロエンカワヒバリガイ	
マガキ	
エゾマテガイ	
マテガイ	
チリハギ	
ヒメシラトリ	
サクラガイ	

バカガイ	
シオフキ	
オキシジミ	
カガミガイ	
ホンビノスガイ	
ハマグリ属	形態で近似種との判別が難しいため
ウスカラシオツガイ	
アサリ	
チロリ	
ヒガタチロリ	
シロマダラシリス	
ハモチウロコムシ	
アシナガゴカイ	
オウギゴカイ	
クマドリゴカイ	
デンガクゴカイ	
コケゴカイ	
ミナミシロガネゴカイ	
スゴカイイソメ	
イワムシ種群	
コアシギボシイソメ	
シノブハネエラスピオ	
マダラスピオ	
アミメドロオニスピオ	
ミズヒキゴカイ種群	
タマシキゴカイ	
ツツオオフエリア	
ツバサゴカイ	
シマウミグモ	
カメノテ	
イワフジツボ	
シロスジフジツボ	
タテジマフジツボ	
ニホンドロソコエビ	
アリアケドロソコエビ	
モズミヨコエビ	
マルエラワレカラ (S 型)	
トゲワレカラ	
キタフナムシ	

フナムシ類	フナムシが3種に分かれたが、まだ精査していないため
テッポウエビ	
ウリタエビジャコ	
シラタエビ	
ユビナガスジエビ	
イソスジエビ	
スジエビモドキ	
コブヨコバサミ	
テナガツノヤドカリ	
ユビナガホンヤドカリ	
ボラ	
ネズミゴチ	
イダテンギンポ	
イソギンポ	
ウロハゼ	
マハゼ	
アゴハゼ	
ドロメ	
ヒメハゼ	
シモフリシマハゼ	
ヌマチチブ	

干潟調査のレポート③

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
横浜港湾空港技術調査事務所 外来海洋生物観察会	横浜港湾空港技術調査事務所 「潮彩の渚」(人工干潟)	8月2日

東京湾カニ生息一斉調査 主催者用とりまとめシート

調査情報

団体名	関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所 外来海洋生物観察会	
調査地点名	横浜港湾空港技術調査事務所「潮彩の渚」(人工干潟) 221-0053 横浜市神奈川区橋本町2-1-4	
位置座標 (可能であれば) ※スマートフォン・タブレット端末 等の地図アプリで取得してくだ さい。	緯度	35.4716
	経度	139.64
実施年月日	令和6年8月2日	
参加人数(人)	20人	

調査結果

種類名	発見数(匹)	代表的な発見場所
チチュウカイミドリガニ		
マメコブシガニ		
ケフサイソガニ	5	干潟上の転石周辺で見つかる。
タカノケフサイソガニ	100	干潟上の転石周辺で見つかる。
ハマガニ		
アシハラガニ		
アカテガニ		
クロベンケイガニ		
クシテガニ		
ウモレベンケイガニ		
イシガニ	10	護岸の角でよく見つかる。
コメツキガニ		
チゴガニ	10	階段付近の砂泥の箇所で見つかる。
オサガニ		
ヤマトオサガニ		
種類不明のカニ		
イソガニ	10	護岸の隙間で見つかる。
ガザミ	1	干潟の砂底で見つかる。
モクズガニ	1	干潟の砂底で見つかる。
スナガニ	5	干潟角の砂浜で見つかる。

(その他に種名が同定できたカニがいましたら、空欄に記入してください。)

備考

発見数は概数ごみです。

干潟調査の結果

団体名	横浜港湾空港技術調査事務所 外来海洋生物観察会	
調査地点名	横浜港湾空港技術調査事務所「潮彩の渚」（人工干潟） 221-0053 横浜市神奈川区橋本町 2-1-4	
位置座標 （可能であれば）	緯度	35. 4716
	経度	139. 6400
実施年月日	令和 6 年 8 月 2 日	
参加人数（人）	20 人	

発見した生物の種名※	特記事項など
ミドリイガイ	岩に付着し、上段・中段でよく見つかる。
タテジマフジツボ	階段や護岸、カキ殻によく付着している。
イワフジツボ	階段や護岸によく付着している。
マガキ	護岸や転石でよく見つかる。殻に付着している生物も多かった。
アカニシ	岩に付着し、よく見つかる。
イボニシ	護岸背後の隙間でよく見つかる。
アラムシロ	護岸背後の隙間でよく見つかる。
タテジマイソギンチャク	岩に付着し、よく見つかる。
マハゼ	成魚、稚魚ともに潮だまりで見つかる。
シマハゼ類	礫のまわりでよく見つかる。
チチブ	礫の周りの砂泥底でよく見つかる。
カタユウレイボヤ	中段の壁面で見つかる。
ボラ	広い水面や岸の近くで見つかる。
ミミズハゼの一種	転石の隙間で見つかる。
イダテンギンポ	壁面に付着するカキ殻の中で見つけたもの。

【調査場所】

横浜港湾空港技術調査事務所

生物共生型護岸「潮彩の渚」(人工干潟)



【対象生物】

干潟に生息する外来海洋生物等

【調査結果概要・調査状況】

潮彩の渚では、主に以下の種が確認されました。

ミドリイガイ (護岸壁面に付着)、タテジマフジツボ、マハゼ、ユウレイボヤ、アカニシ、アラムシロ、タテジマイソギンチャク等



外来海洋生物等の採取様子①



外来海洋生物等の採取様子①



採取した海洋生物

干潟調査のレポート④

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
横浜港湾空港技術調査事務所 江戸前アサリわくわく調査	横浜港湾空港技術調査事務所 「潮彩の渚」(人工干潟)	8月20日

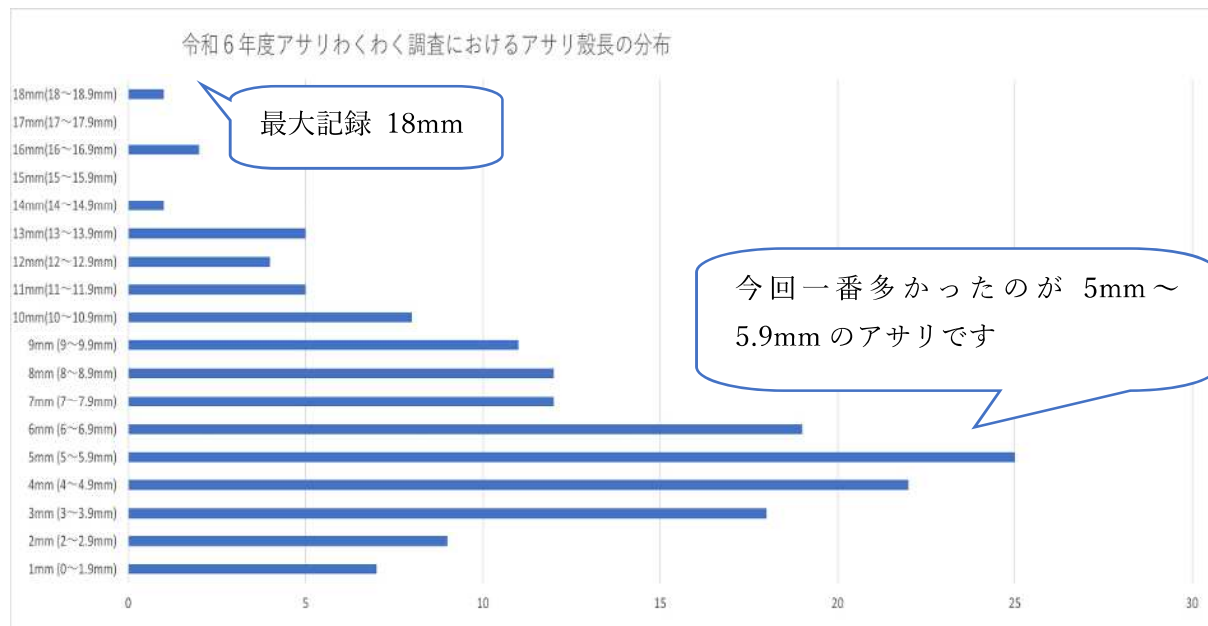
干潟調査の結果

団体名	横浜港湾空港技術調査事務所 江戸前アサリわくわく調査	
調査地点名	横浜港湾空港技術調査事務所「潮彩の渚」(人工干潟) 221-0053 横浜市神奈川区橋本町2-1-4	
位置座標 (可能であれば)	緯度	35.4716
	経度	139.6400
実施年月日	令和6年8月20日	
参加人数(人)	29名	

発見した生物の種名※	特記事項など
ミズヒキゴカイ	干潟の砂泥底で見つかる。
ミドリイガイ	岩に付着し、上段・中段でよく見つかる。
マガキ	護岸や転石でよく見つかる。殻に付着している生物も多かった。
アサリ	干潟の砂泥底で見つかる。
マテガイ	干潟の砂泥底で見つかる。
シオフキ	干潟の砂泥底で見つかる。
サルボウ	干潟の砂泥底で見つかる。
アカニシ	岩に付着し、よく見つかる。
イボニシ	護岸背後の隙間でよく見つかる。
アラムシロ	護岸背後の隙間でよく見つかる。
シマメノウフネガイ	カキ殻や巻貝の上で見つかる。
タテジマフジツボ	階段や護岸、カキ殻によく付着している。
イワフジツボ	階段や護岸によく付着している。
コブヨコバサミ	干潟上の転石周辺で見つかる。
ユビナガホンヤドカリ	干潟上の転石周辺で見つかる。
タテジマイソギンチャク	岩に付着し、よく見つかる。
マハゼ	成魚、稚魚ともに潮だまりで見つかる。

【調査結果概要】

調査地点 12 箇所 (1 箇所当たり 25 cm×25 cm×10 cm) で合計 161 個、殻長は 1～18 mm でした。



【調査の様子】



アサリの採取状況



採取したアサリの計測

干潟調査のレポート⑤

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
横浜港湾空港技術調査事務所 釣り調査	横浜港湾空港技術調査事務所 「潮彩の渚」(人工干潟)	9月17日、9月18日

干潟調査の結果

団体名	横浜港湾空港技術調査事務所 釣り調査	
調査地点名	横浜港湾空港技術調査事務所「潮彩の渚」(人工干潟) 221-0053 横浜市神奈川区橋本町 2-1-4	
位置座標 (可能であれば)	緯度	35.4716
	経度	139.6400
実施年月日	令和6年9月17・18日	
参加人数(人)	9/17:40人 9/18:68人	

発見した生物の種名※	特記事項など
マハゼ	9/17:3匹 9/18:7匹
コトヒキ	9/17:1匹
チチブ	9/17:2匹 9/18:2匹
ヨウジウオ	9/18:2匹

【調査場所】

横浜港湾空港技術調査事務所

生物共生型護岸「潮彩の渚」(人工干潟)



【対象生物】

干潟に生息するマハゼなどの海洋生物

【調査結果概要・調査状況】

潮彩の渚では、主に以下の種が確認されました。

マハゼ、コトヒキ、チチブ、ヨウジウオ



釣り調査の様子



海や海洋生物に関する座学の様子